

2022年度

群馬県立県民健康科学大学 看護学部

一般選抜試験問題

小論文

群馬県立県民健康科学大学

下記の図と表は、平成 30 年 11 月に実施された「国民健康・栄養調査*」の結果の一部です。
 この結果に関連する次の各問に答えなさい。

図 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度(20 歳以上、性・年齢階級別)

問:あなたは、主食(ごはん、パン、麺類などの料理)、主菜(魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理)、副菜(野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理)の3つを組み合わせて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。

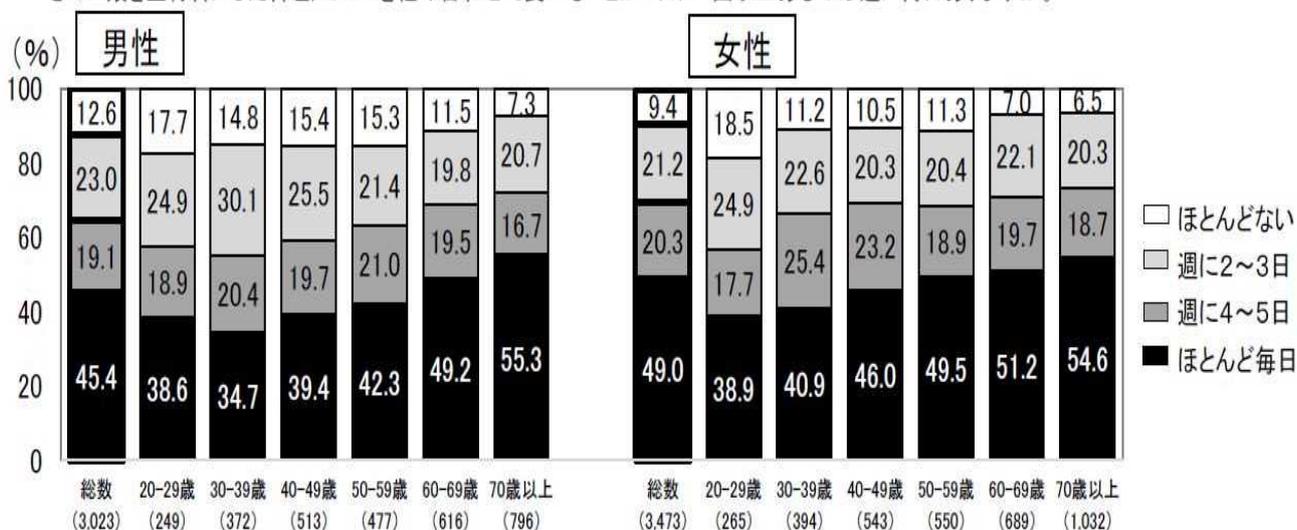


表 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の頻度が週5日以下と回答した者における主食・主菜・副菜の3つを組み合わせたことがバランスのよい食事になることを知っている割合(20 歳以上、性・年齢階級別)

問:主食・主菜・副菜の3つを組み合わせるとバランスの良い食事になることを知っていますか。

		総数		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
男性	総数	1,651	88.7	153	89.5	243	89.3	311	88.7	275	93.5	313	85.3	356	87.4
	週に4-5日	577	92.5	47	100.0	76	94.7	101	96.0	100	95.0	120	90.0	133	86.5
	週に2-3日	694	89.3	62	90.3	112	92.0	131	86.3	102	93.1	122	88.5	165	87.9
	ほとんどない	380	81.8	44	77.3	55	76.4	79	83.5	73	91.8	71	71.8	58	87.9
女性	総数	1,771	95.5	162	95.7	233	98.3	293	96.6	278	97.5	336	96.7	469	91.5
	週に4-5日	706	97.3	47	95.7	100	98.0	126	98.4	104	99.0	136	98.5	193	94.8
	週に2-3日	738	94.3	66	95.5	89	98.9	110	95.5	112	97.3	152	96.7	209	88.0
	ほとんどない	327	94.5	49	95.9	44	97.7	57	94.7	62	95.2	48	91.7	67	92.5

※主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べる頻度が「週に4~5日」「週に2~3日」「ほとんどない」と回答した者が回答。

*注:国民健康・栄養調査は、健康増進法に基づき国民の健康増進の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として厚生労働省が毎年実施するものである。

出典 厚生労働省:平成 30 年度 国民健康・栄養調査結果の概要

図表番号を一部改変し引用

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08789.html(2021 年 8 月 30 日アクセス)

問1 図の 20-29 歳に着目した男女別の特徴を 100 字以内で記述しなさい。

問2 表の 20-29 歳に着目した男女別の特徴を 150 字以内で記述しなさい。

問3 国民の食生活の現状をふまえ、健康と食事についてのあなたの考えを 300 字以内で記述しなさい。

群馬県立県民健康科学大学
看護学部看護学科
2022年度 一般選抜試験
小論文試験問題2

次の文章を読んで、各問に答えなさい。

<前略>

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（新潮社）を書かれたブレイディみかこさんと対談した時に、ブレイディさんがイギリスの演劇教育について話してくれました。

中学生の息子さんがいらっしゃるのですが、入学した一年目に、演劇の発表会があって、息子さんはオーディションを受けたそうです。

演劇をする意味は、「他人になること」です。

「他人になる」ことで、どんなことが得られるのか——ブレイディさんは、①「シンパシー (sympathy)」と「エンパシー (empathy)」の違いを語りました。

「シンパシー」とは、他人に同情する気持ちです。

「エンパシー」とは、他人の気持ちを想像できる能力のことです。

私達が同質な世界に生きていて、自分と他人がそんなに違っていなかった時代には、「シンパシー」同情心が大切でした。

けれど、価値観が多様化し、人々が分断され、日本では「世間」と呼ばれる関係が中途半端に壊れている現代では、「エンパシー」つまり、②他人の気持ちに共感する能力がより大切なのです。

英語では、「他人の靴を履く (put yourself in someone's shoes)」というイディオムが、相手の立場になって考えるという意味です。

まさに、相手の靴を履いてみる、という具体的な表現です。

演劇は、他人の靴を履き、エンパシーを育てる手段なのです。

<後略>

出典 鴻上尚史：演劇入門 生きることは演じること，集英社，214-215，2021

問1 下線①「シンパシー (sympathy)」と「エンパシー (empathy)」の違いについて、具体的な例を挙げて300字以内で説明しなさい。

問2 下線②他人の気持ちに共感する能力がより大切という筆者の主張について、あなたはどのように考えますか。理由も含めて200字以内で説明しなさい。

注 意 事 項

- 1 問題用紙は表紙を含めて4枚、解答用紙4枚、下書き用紙2枚、裏表紙（注意事項記載）1枚です。
- 2 解答用紙の所定の欄に、必ず受験番号・氏名を記入してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。下書き用紙に解答を記入しても、採点の対象とはしません。また、解答用紙の「得点欄」には何も記入しないでください。ホチキスは外さず解答してください。
- 4 問題用紙・解答用紙に印刷不鮮明や汚れ等がある場合は、無言のまま手をあげて、監督員の指示に従ってください。
- 5 試験中に質問や用便等の用件がある場合も、無言のまま手をあげて監督員の指示に従ってください。
- 6 試験開始後、途中退室は認めません。
- 7 問題用紙及び下書き用紙は持ち帰ってください。
- 8 不正行為や、他の受験者に迷惑となる行為を行った場合は、失格とすることがあります。